藤原宮跡（奈良県橿原市）

ふじわらきゅうあと

この一帯は橿原市の藤原京跡でその中心地である藤原宮跡が近くに展開している/是非、世界遺産に登録されることを願う

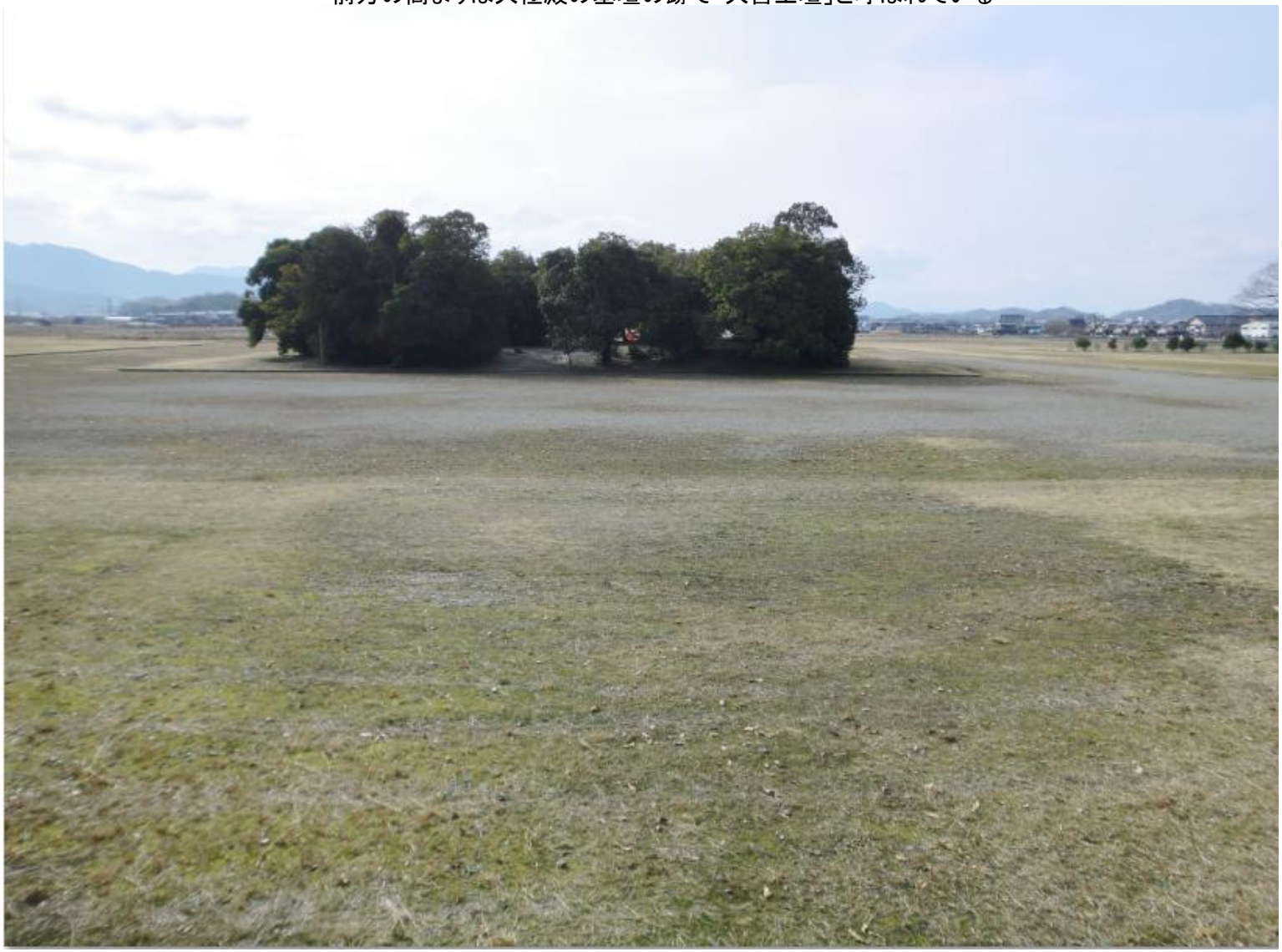
ここの二階に橿原市藤原京資料室がある

説明板のオレンジ色のエリアが藤原京（新益京（あらましのみやこ）ともいう）の中心地、藤原宮のエリア

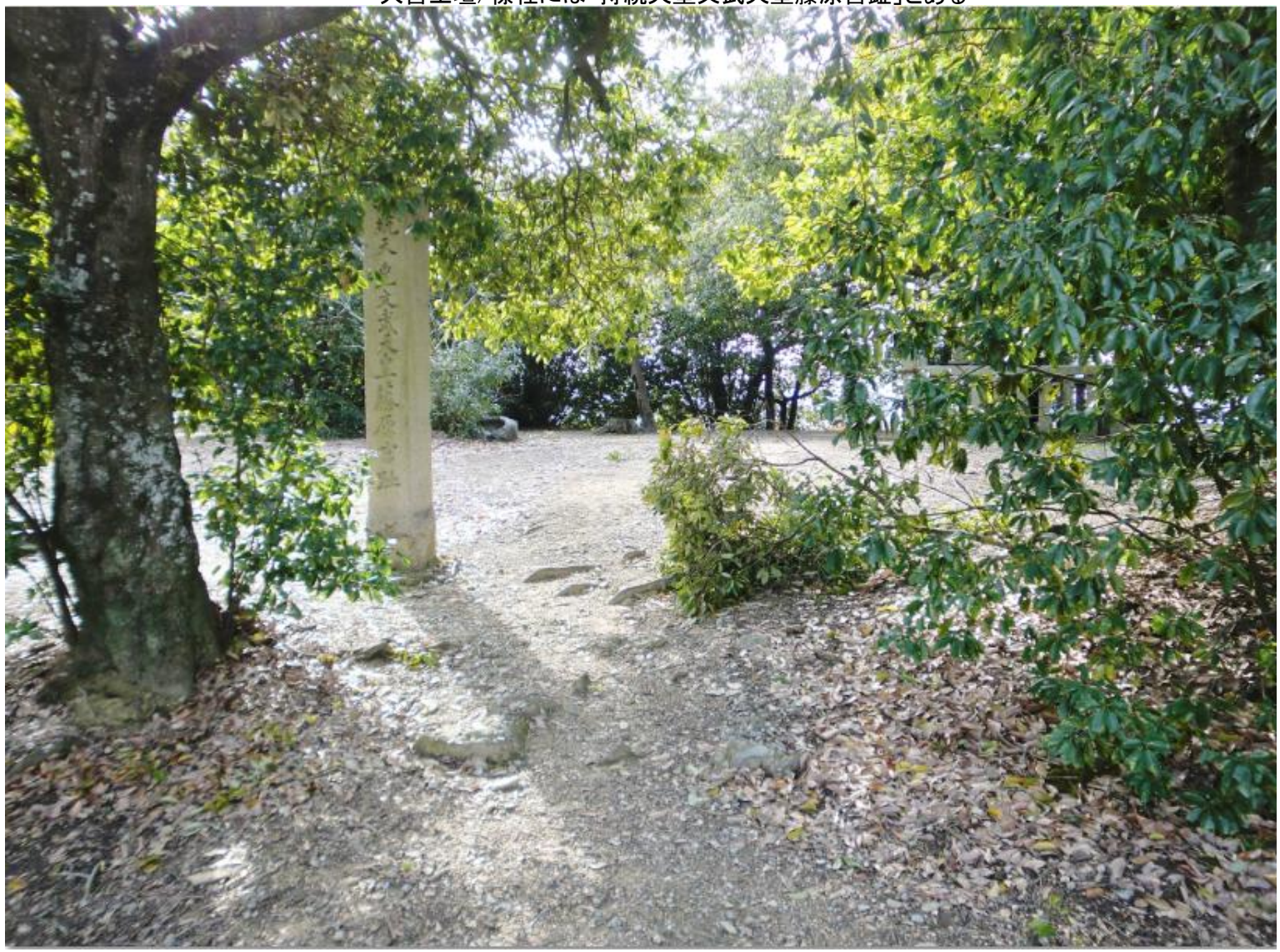
藤原宮跡には大極殿（だいごくでん）と朝堂院（ちょうどういん）の一部が復元・整備されているという

この前方一帯が藤原宮跡/標柱に「特別史跡　藤原宮跡」とある

前方の高まりは大極殿の基壇の跡で「大宮土壇」と呼ばれている



大宮土壇/標柱には「持統天皇文武天皇藤原宮趾」とある



大宮土壇の中央に立つ神木

南西側から見た大宮土壇/手前に説明板が立っている

特別史跡
藤原宮跡
大蔵省史跡 昭和二十一年 十一月 二十一日
特別史跡指定 昭和二十七年 三月 二十六日
藤原宮は、持統天皇八年（六九四）から和銅三年（七一〇）まで、持統・文武・元明天皇三代にわたる都で
した。藤原宮はその中心部にあり、現在の皇居に相当する
事堂、および官庁街（官衙）の官庁街とを一か所に集めたような
ところです。大きさはおよそ九〇〇メートル四方、まわ
りを大垣（高い塀）と濠で囲み、各面に三か所ずつ門が開
きます。中には、天皇が住む内裏、政治や儀式をおこな
う大極殿と朝堂院、そして役所の建物などが建ちならん
でいました。
大極殿は、重要な政治や儀式の際に天皇の出御する建
物です。赤く塗った柱を礎石の上に建て、屋根を瓦で葺
くという、日本では最初の中国風の宮殿建築でした。建
物の柱間は正面九間（四十五メートル）、側面四間（二十
メートル）で、基壇を含めた高さは二十五メートルもあ
ったと、藤原宮では最大です。現在は基壇の跡だけが残り、
「大宮土壇」と呼ばれています。昭和十年（一九三五）に、
日本古文化研究所がこの土壇を発掘調査し、藤原宮解明
の端緒となりました。

特別史跡

藤原宮跡

史跡指定　昭和二十一年　十一月　二十一日
特別史跡指定　昭和二十七年　三月　二十九日

藤原京は、持統天皇八年（六九四）から和銅三年（七一〇）まで、持統・文武・元明天皇三代にわたる都でした。藤原宮はその中心部にあり、現在の皇居と国会議事堂、および霞ケ関の官庁街とを一か所に集めたようなところです。大きさはおよそ九〇〇メートル四方、まわりを大垣（高い塀）と濠で囲み、各面に三か所ずつ門が開きます。中には、天皇が住む内裏、政治や儀式をおこなう大極殿と朝堂院、そして役所の建物などが建ち並んでいました。

大極殿は、重要な政治や儀式の際に天皇の出御する建物です。赤く塗った柱を礎石の上に建て、屋根を瓦で葺くという、日本では最初の中国風の宮殿建築でした。建物の柱間は正面九間（四十五メートル）、側面四間（二十メートル）、基壇を含めた高さは二十五メートルをこえ、藤原宮では最大です。現在は基壇の跡だけが残り、「大宮土壇」と呼ばれています。昭和十年（一九三五）に、日本古文化研究所がこの土壇を発掘調査し、藤原宮解明の端緒となりました。

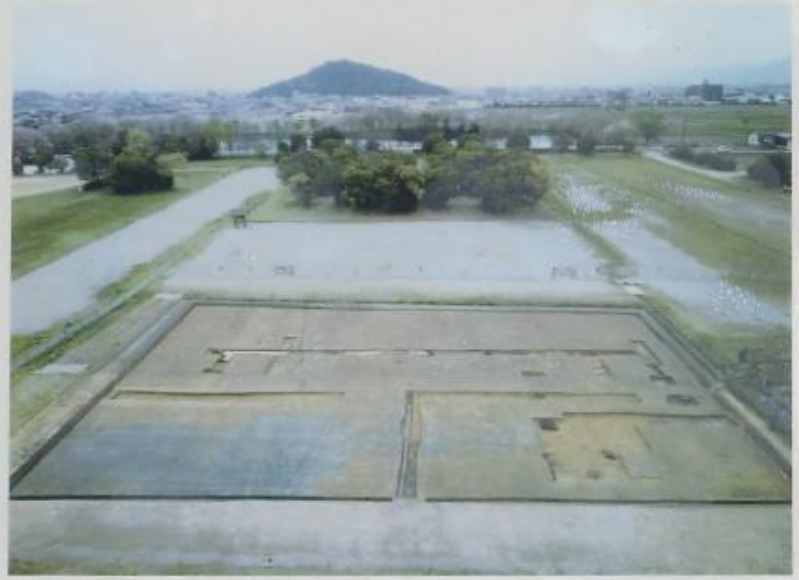
これは大宮土壇から南方向を見たところ/前方は大極殿院閤門（こうもん）の列柱の再現表示（実際の位置よりも南側に30m寄っている）

その左手を見る/左前方手前の山は大和三山の一つ、香久山（天香久山）

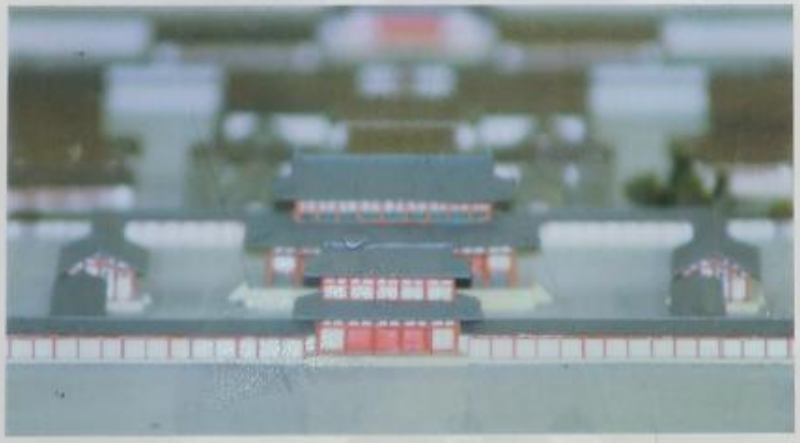
右手を見る/右端の山は大和三山の一つ、畝傍山（うねびやま）

畝傍山をアップで見る

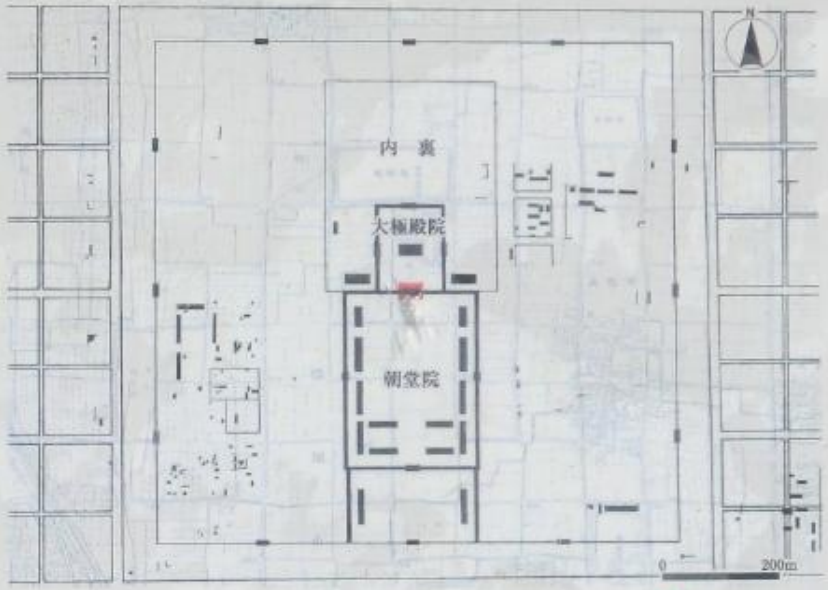
大極殿院閤門の説明板



閤門跡 －南から－（奈良文化財研究所提供）



閤門 －藤原京復元模型より－



藤原宮（奈良文化財研究所提供）　■：大極殿院閤門

大極殿院閤門

大極殿院閤門は、大極殿院と朝堂院を区切る門です。日本古文化研究所の調査により基壇最下段の石材が部分的に確認されています。規模は不確定ながら、正面約30m、側面約15mと朝堂院南門と同規模と想定されています。2007年には、奈良文化財研究所により再調査が実施されています。

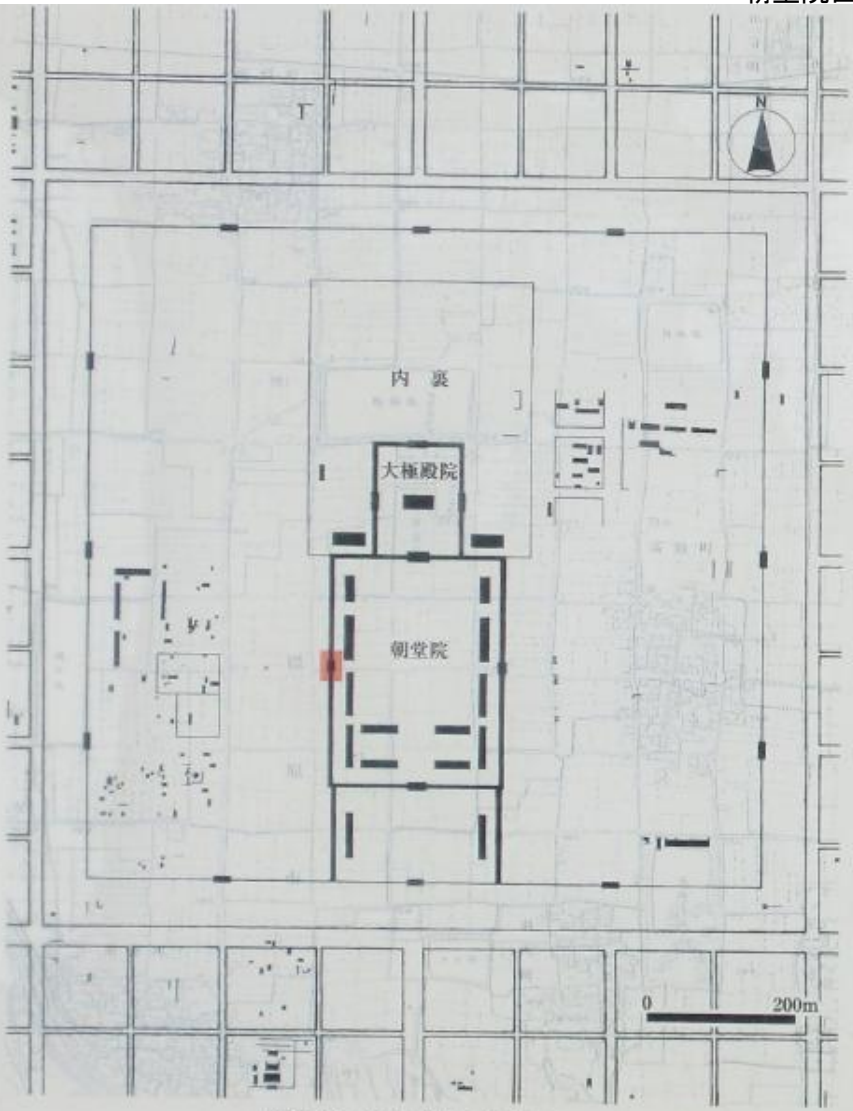
なお、列柱は閤門より南30mの場所に設置し、再現表示しています。

橿原市

さて藤原宮跡を反時計回りに回ってみよう/これは西側にある朝堂院西門跡として設置された列柱

この列柱は西門想定地より北10mの場所に再現表示されている

朝堂院西門の説明板



藤原宮（奈良文化財研究所提供）　■：朝堂院西門

想定される西門の位置　－藤原京復元模型より－

朝堂院西門

西門については、これまで発掘調査が実施されていません。しかしながら、藤原宮の殿堂（でんどう）は左右対称に配置され、また殿堂を囲む回廊（かいろう）にもその中央にそれぞれ閤門（こうもん）・南門・東門が築かれています。このことから回廊の西辺中央にも西門が築かれていたことが容易に推定できます。そして西門は、東門とおなじ規模の八脚門（はっきゃくもん）であったと推測されます。

なお、列柱は西門想定地より北10mの場所に設置し、再現表示しています。

橿原市

さて、南側に回って北方向を見たところ/前方の山は大和三山の一つ、耳成山（みみなしやま）

ここにも標柱が立つ/左手前方には説明板も立っている

特別史跡

藤原宮跡

史跡指定　昭和二十一年　十一月　二十一日
特別史跡指定　昭和二十七年　三月　二十九日

藤原京は、持統天皇八年（六九四）から和銅三年（七一〇）まで、持統・文武・元明天皇三代にわたる都でした。藤原宮はその中心部にあり、現在の皇居と国会議事堂、および霞ケ関の官庁街とを一か所に集めたようなところです。大きさはおよそ九〇〇メートル四方、まわりを大垣（高い塀）と濠で囲み、各面に三か所ずつ門が開きます。中には、天皇が住む内裏、政治や儀式をおこなう大極殿と朝堂院、そして役所の建物などが建ち並んでいました。

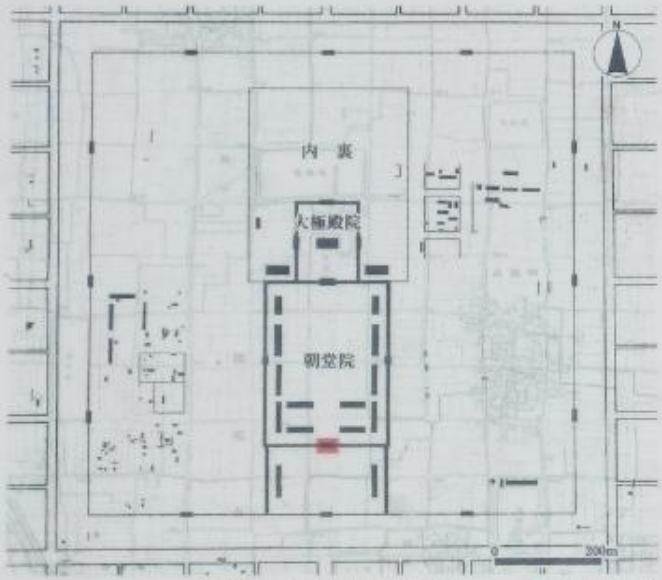
大極殿の南に位置する朝堂院は、周囲に回廊がめぐる空間で、中央の広場を囲んで十二の朝堂が配置されていました。昭和九年（一九三四）から十年間、日本古文化研究所はこの遺跡をはじめて発掘調査し、中心施設である大極殿・朝堂院の位置と規模を明らかにしました。その後、昭和四十一年（一九六六）からは奈良県教育委員会が、昭和四十四年からは奈良国立文化財研究所（現 奈良文化財研究所）が発掘調査を引き継ぎました。今後調査が進めば、さらに多くの事実が明らかになるものと期待されます。

ここは朝堂院南門跡/その後方には大極殿院閤門の列柱が見える/前方の山は耳成山

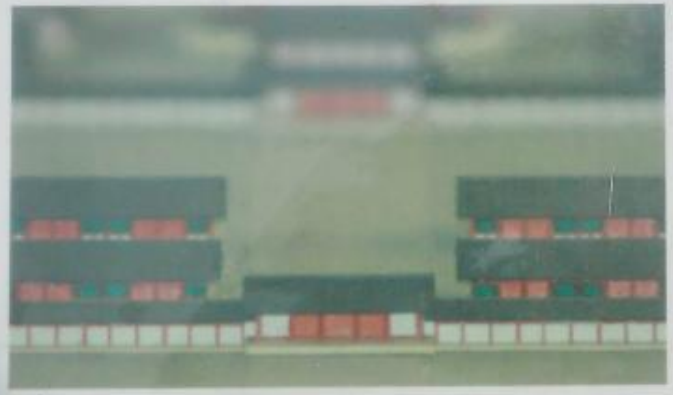
西側から東方向に見たところ/右手の山は香久山

北西側から南東側に見たところ/左手の山は香久山

朝堂院南門の説明板/列柱は南門より北20mの場所に設置し、再現表示してあると記されている



藤原宮（奈良文化財研究所提供）　■：朝堂院南門



南門 －藤原京復元模型より－

朝堂院南門

日本古文化研究所により昭和13年と14年に南門を確認するため想定場所である字カジヤ坪の発掘調査がなされました。調査の結果、礎石を据えた痕跡である栗石（くりいし）が14箇所確認され、その配置状況からここに南門が築かれていたことが明らかとなりました。

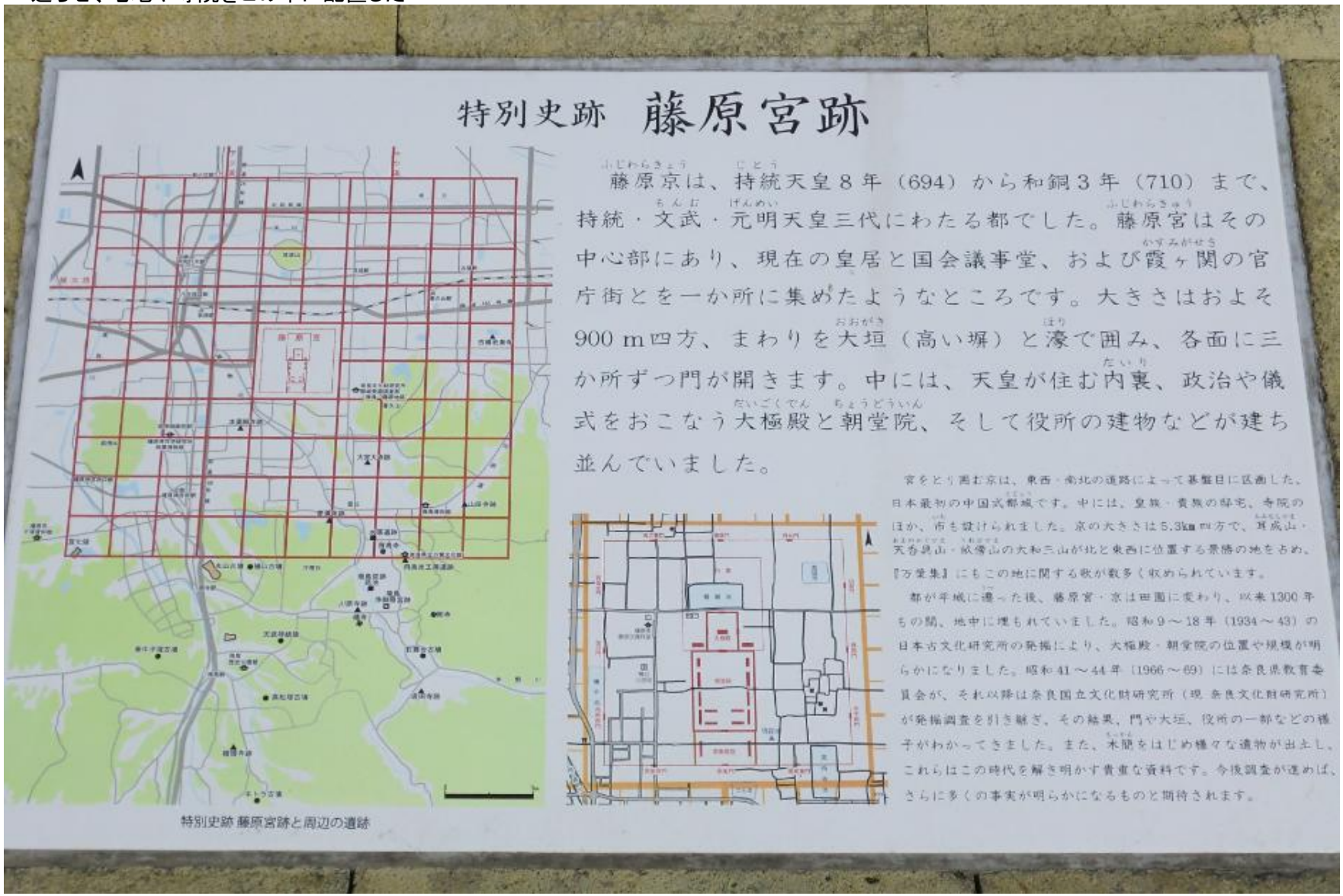
南門の規模は、正面（桁行（けたゆき））5間（けん）〈24.6m〉、側面（梁行（はりゆき））2間（けん）〈10.2m〉で、柱の間隔（かんかく）は正面中央の1間（けん）分が広く18尺（しゃく）、〈5.4m〉、その両側2間（けん）分の柱が16尺（しゃく）〈4.8m〉、また側面の柱は各々17尺（しゃく）〈5.1m〉であったと考えられています。

なお、列柱は南門より北20mの場所に設置し、再現表示しています。

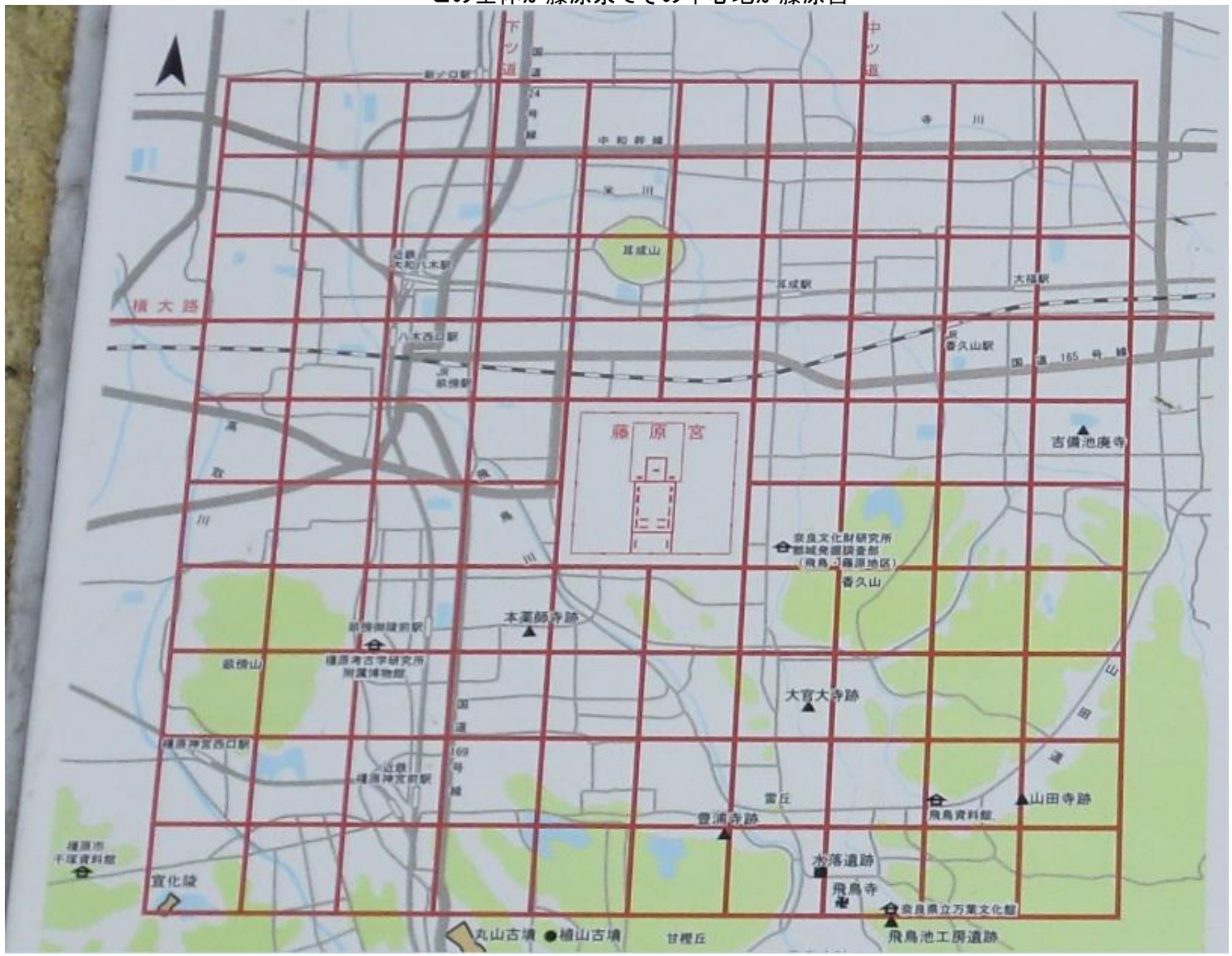
橿原市

藤原宮跡を南東側から北西方向へ見たところ/前方に説明石が据わっている/右手の山は耳成山

藤原京は中国都城を見習った都市で政治の中枢である内裏・大極殿・官衙を宮に集約し、その周囲には条坊制と呼ばれる区画道路を張り巡らせ、宅地や寺院をこの中に配置した



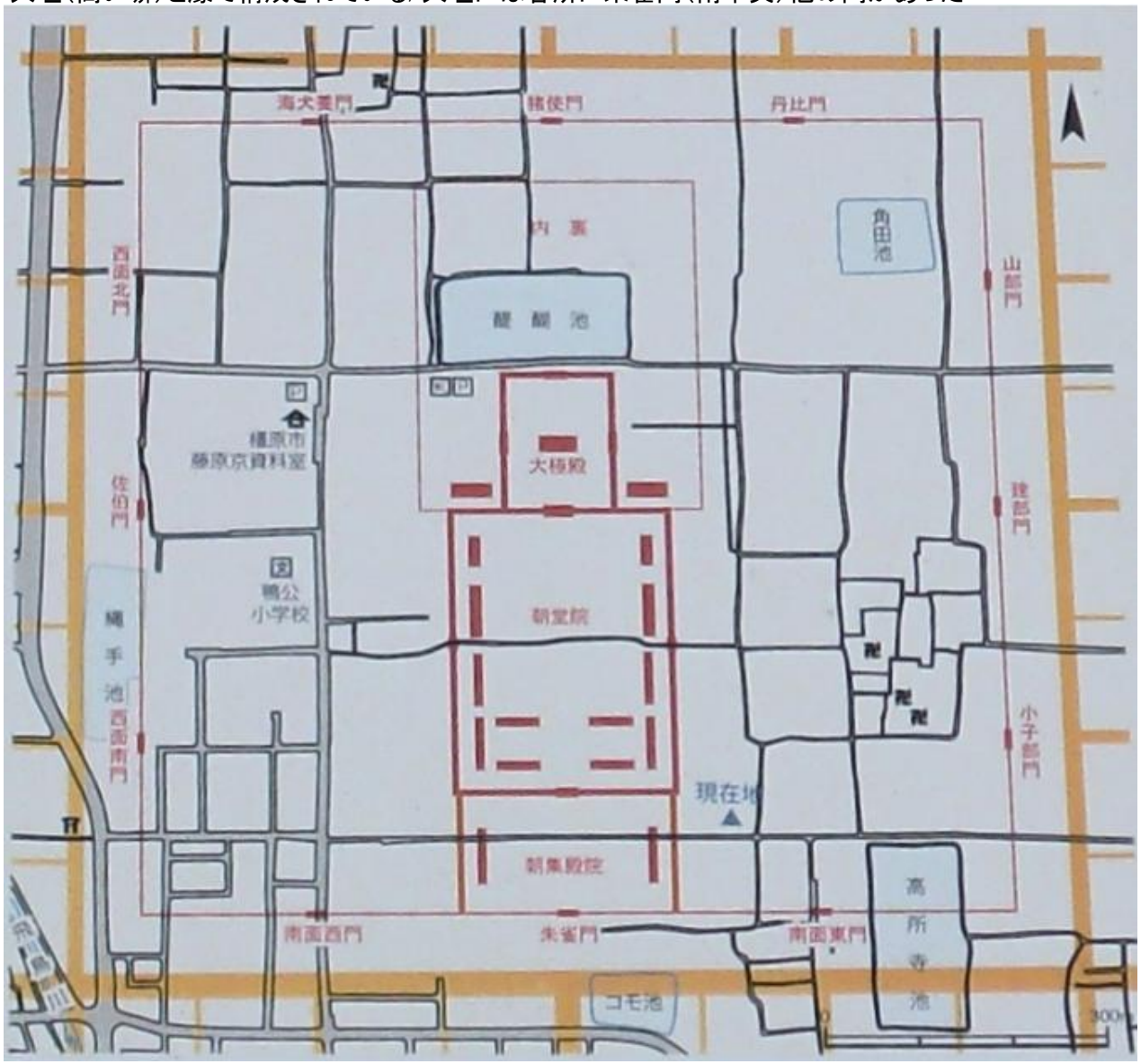
この全体が藤原京でその中心地が藤原宮



宮をとり囲む京は、東西・南北の道路によって碁盤目に区画した、日本最初の中国式都城（とじょう）です。中には、皇族・貴族の邸宅、寺院のほか、市（いち）も設けられました。京の大きさは5.3km四方で、耳成山（みみなしやま）・天香具山（あまのかぐやま）・畝傍山（うねびやま）の大和三山が北と東西に位置する景勝の地を占め、『万葉集』にもこの地に関する歌が数多く収められています。

都が平城に遷（うつ）った後、藤原宮・京は田園に変わり、以来1300年もの間、地中に埋もれていました。昭和9～18年（1934～43）の日本古文化研究所の発掘により、大極殿・朝堂院の位置や規模が明らかになりました。昭和41～44年（1966～69）には奈良県教育委員会が、それ以降は奈良国立文化財研究所（現 奈良文化財研究所）が発掘調査を引き継ぎ、その結果、門や大垣、役所の一部などの様子がわかってきました。また、木簡（もっかん）をはじめ様々な遺物が出土し、これらはこの時代を解き明かす貴重な資料です。今後調査が進めば、さらに多くの事実が明らかになるものと期待されます。

藤原宮/内裏（天皇の住居）・大極殿（儀式の中心建物）・朝堂院（政治の場）・朝集殿院とそれらを囲む大垣（高い塀）と濠で構成されている/大垣には各所に朱雀門（南中央）他の門があった

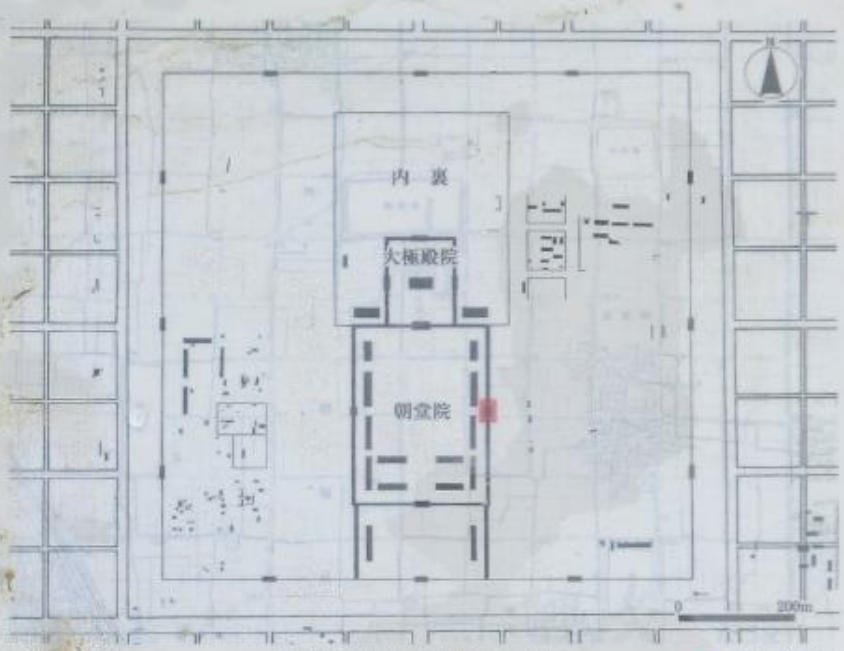


さて、これは朝堂院跡の東辺を南側から北方向へ見たところでこの列柱は東門跡

北側から南方向へ見たところ

朝堂院東門の説明板/列柱は東門より北10mの場所に設置し、再現表示してあると記されている

発掘調査された東門跡 －西より－（奈良文化財研究所提供）



藤原宮（奈良文化財研究所提供）　■：朝堂院東門

朝堂院東門

東門については、奈良文化財研究所による調査によりその存在が初めて確認されました。

東門は、南北3間（けん）、東西2間（けん）の八脚門（はっきゃくもん）で、基壇（きだん）規模は南北21.3m、東西14.5mであったと想定されています。

なお、列柱は東門より北10mの場所に設置し、再現表示しています。

橿原市

さて、正面はそこから見た大極殿閤門跡の列柱

その大極殿閤門跡の列柱を東側から西方向に見る/左手の山は畝傍山

近づいて見たところ

なお、その近くの東側にこんなものがあった/礎石などであろうか

参考ホームページ

http://www.nabunken.go.jp/fujiwara/index.html

http://www.nabunken.go.jp/fujiwara/exhibit.html

http://www.asuka-tobira.com/fujiwarakyo/fujiwarakyo.htm

http://www.bell.jp/pancho/asuka-sansaku/fujiwara-kyuuseki.htm

http://sakuwa.com/yw82.html

http://asukanet.gr.jp/ASUKA2/ASUKAMIYA/fuziwaragu.html

http://www.bell.jp/pancho/travel/asuka-ji/fujiwarakyu.htm

http://www9.plala.or.jp/kinomuku/fujiwara/fujiwarakyo.html

http://kankodori.net/japaneseculture/site/039/index.html

http://eich.blog.ocn.ne.jp/aoniyoshi/2013/06/post_71c6.html

http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page151.html

曽我川
県営福祉パーク
真菅北小
新ノ口
豊田町
樋上病院
松塚
真菅
高田商高
真菅小
金橋
橿原市役所
八木西口
耳成山
耳成
大福
香久山
藤原宮跡
橿原市
三和澱粉工業
浮孔
消防本部
坊城
畝傍御陵前
畝傍山
天香久山
橿原神宮西口
橿原神宮前
北越智町
石川池
甘樫丘
岡寺
菖蒲町
倭彦命墓
明日香村役場
古池
高殿町
中和病院
三輪
桜井市役所
2.5 km